

第6章

孤立死



単身住居者が誰にも看取られず一人で死に至る「孤立死」は、全国で年間3万人にものぼるとされる。予備軍となる、自宅に“閉じこもる”高齢者たちの実態とは

が孤立死を迎えるといった事実もない。先述の2件のように、普通の一般家庭で突然に見舞われる“日常”なのだ。

離婚や配偶者との死別で“生命線”が断たれ……

1万件に及ぶ死後の整理に携わってきた、遺品整理専門会社「キーパーズ」代表の吉田太一氏が指摘する。

「多くの中高年男性にとって、離婚や死別による伴侶との別れは、文字通り生命線を絶たれるのと同じです。なかでも今の60～70代は高度経済成長期にがむしやらに働いてきた世代で、プライベートに費した時間が乏しい。家事や子育ては専業主婦の妻任せで、子どもとの繋がりも薄く、仕事以外での社会性が培われていない場合が少なくないのです」

都内で孤立死した独居男性（享年70）の生活ぶりと室内の有り様はその典型だった。

67歳で突然妻に先立たれた男性は、家事の一切を妻に頼っていた元“仕事人間”。食事の支度はおろか、掃除、洗濯、ゴミ出し、すべてに不慣れで、日常生活は一変した。

食事はコンビニ弁当やインスタント食品のみとなり、洗濯が面倒で洋服は何日も同じもの

を着続ける。物は出しつぱなしにして片付ける意思も気力もなく、溜まり続けるゴミとともに放置。それら一切が3DKマンションの室内に徐々に積み上がっていく。

男性本人に近所付き合いはなく、気位の高さから周囲へ助けを乞うことも、他県に住む息子や娘にも泣きつくことも出来ない。気晴らしのための飲酒量ばかりが増して、そのうちに体調も悪化。足腰が弱つてトイレへの移動も難儀になり、鍋やレジ袋内に排泄を済ませ、汚物までもが散乱し始めた。

前出の民生委員が続ける。

「室内の状態がひどくなると、人に知られまいとして、さらに他者とのかかわりを拒むようになります。一度社会との接点を断ち切ってしまえば、あとは自らの殻を厚くして閉じこもることに腐心する。外界からの適切な働きかけがない限り、自然な自己快復はあり得ません」

男性は死後約3ヶ月、大人の胸元辺りまでうず高く積まれた物とゴミの隙間で、糞尿ふんようまみれの遺体となつて発見される。清掃が済んだ状態で室内に入るも、独特の悪臭は窓サッシの溝にまで沁みこんでおり、強烈な目眩めまいと吐き気に襲われた。

「電化製品などを拾い集めては自宅の敷地内へ溜める“ゴミ屋敷”は主に一軒家に多くて人目につきやすく、行政の立ち入りや集積所が廃止されるなどして減少傾向にあります。一方で、惣菜トレーやペットボトルなどの生活ゴミを室内に溜め込む“ゴミマンション”“ゴミ

アパート』は、ドア1枚で中が窺い知れないこともあります。積雪のごとく、1・8メートル超の惨状も珍しくなく、1メートル進むのに2時間を要する部屋もあるほどで、高齢者においては『干渉しない、されたくない』と、自身の人間関係を排除する『砦』的役割すら担っています』（前出・吉田氏）

「男のプライド」が他者を拒絶させる

無闇にSOSを出せない、弱音を吐けないと、父親や男としてのプライドも孤立死を招く要因に成り得る。

都内の高齢者専用住宅に住む72歳男性は現役時代、一部上場企業の部長職に就いていた。その彼が「死にかけて初めて初めて、見栄と虚勢を捨てられたんだよ」と、照れ笑いを浮かべながら話す。

その上で、長年連れ添った伴侣を欠けば、生活基盤とともに社会と繋がる窓をも閉ざしかねない。

孤立死の現場が総じてゴミの山になりがちなのは、「ゴミ出しのルールが分からぬからなのです」と同氏は説く。

「生活全般を奥さんに頼り切っていた男性ほど、失った途端に『ないない尽くし』に。整理整頓、食事の支度、ゴミ出しの他、地域交流、身内との連絡など、どれもお手上げ状態となってしまう。なかでもゴミ出しは一度間違った出し方をして注意されると、恥と体裁から家中へ溜め込む傾向が顕著です」

孤立死と十余年向き合ってきた「まつど孤独死予防センター」所長の中沢卓実氏は、「定年後に生き方が分からぬまま自宅に閉じこもる単身男性は極めて多い。いかにして家から出させるかが孤立死予防のカギなのです」と声を大にする。

第二の人生として、意氣揚々とボランティアや地域活動に踏み出しても、積み上げた仕事人間としての習性やキャリアが、時に弊害として立ちはだかる。

「相応の役職で退職を迎えている人が多く、常に上から目線で下の者へ指示する感覚が染み付いてしまっているんです。会社が完璧な縦社会なのに対し、近所付き合いや地域活動は全くの横社会。しかも主役は女性で、同じ目線に立てず、命令口調や横柄な態度から総スカンを喰らって、『こりどり』と、引きこもる高齢男性は跡を絶ちません。特にエリートやインテリほど理屈に強いが現実に弱く、フラットな人間同士のかかわり方を体得しておらずに、孤立してこもり切りになる確率が非常に高いのです」